



香美市香北町出身で、アパンマンの生みの親、やなせたかしのイラスト原画展を開催します。漫画家・絵本作家だけでなく、詩人・イラストレーター・編集者・エッセイスト・キャラクターデザイナー・作詞家・歌手など、94歳となる現在も現役でさまざまな活

躍を続けているやなせたかし。その50年以上にも及ぶ創作活動の中で、大人から子どもまで広い世代に愛される、数多くの作品を生み出してきました。そんなやなせたかしの活動の歩みの中から、月刊誌『詩とメルヘン』に掲載されたイラスト原画を紹介いたします。色彩豊かなやなせたかしの世界をお楽しみください。

また、1970年に大阪で開かれた万国博覧会を機にスタートし、毎年開催している『世界児童画展』

やなせたかし イラストの世界

第42回 世界児童画展・四国展

同時開催

2月15日(金) ~ 3月24日(日)



「リンゴハウスにはだれが住んでいるのか」
絵・やなせたかし
(月刊「詩とメルヘン」1983年9月号表紙原画)

も、同時開催します。こちらは、四国4県の子どもの入賞作品を中心に、国内の優秀作品、海外の子どもの作品を一堂に展示します。この展覧会は、子どもたちの健やかな成長と、国境を越えて世界の人々をつなぐ国際相互理解を目的として開かれてきました。この機会にぜひ、世界の子どもたちが何を見て、何を思い、何を感じて描いた絵なのか、想像を膨らませてみてください。

いつの時代も多くの人々に愛される作品を作り続けてきたやなせたかしの世界と、世界中の子どもたちの夢いっぱい作品を、ぜひご覧ください。皆さまのご来館をお待ちしています。
(館長・都築房子)



「かにとあそんだよ」
池田優希 小1 (愛媛県)

吉井勇記念館だより

吉井勇顕彰短歌大会 楠瀬先生講演会

第10回吉井勇顕彰短歌大会表彰式の終了後に講演会を開催します。講師は今大会選者の楠瀬兵五郎先生です。大会への作品投稿の有無に関わらず、どなたでもご参加できます。皆さんお誘い合わせの上、ご来場ください。※入場無料

【日時】3月9日(土) 13時(表彰式開始)

※講演会は14時開始予定

【場所】猪野々集会所(吉井勇記念館隣)

【講師】楠瀬兵五郎さん(「高知アララギ」代表)

【送迎バス】香美市役所本庁舎前より、香美市役所香北支所前経由で、送迎バスを運行します。※要予約

行き 12時発(香美市役所香北支所前12時20分) 帰り 15時40分発

【問い合わせ先】吉井勇記念館 58・2220

季節の展示『春』のお知らせ

吉井勇記念館では、『春』を詠んだ作品の展示をしております。ぜひご来館ください。

【期間】2月27日(水) ~ 5月27日(月)

両ほそく 叡山苔を濡らしるぬ
君とながむる 木屋町の庭(草珊瑚より)

【解説】春といってもまだ火桶の恋しい時分の黄昏時に、絹糸のように細く降る京の春雨を眺め、詠んだ歌。誰しも涙がにじんでく

館ください。

香美市文芸

風の流氷

広報委員会 選

◆一般投稿作品◆

行く秋や日暮れの寒く風呂わかす
北風や鹿の匂いを運べるや
水仙や襟を正して出勤す
炭を焼く里に祖父母の在りし頃
年重ね年賀書く手も震えがち
霜柱サクサク踏みしめ初詣
前山に日を残しつゝ冬至来る
対岸の集落を消し冬の霧
天を突く石鎚山と紅葉見て
秋の天すつきり見せて庭師去る
音もなく青極めけり冬の空
孫嫁ぎ無沙汰も良いとして小春
よくみれば蠟梅芽吹く池の端
七草や覚えがたきを煮炊きする
ささんかや散り重なりて老いひとり

◆俳句◆

薪小屋に石置く郷の冬構え
暗がりに椎茸櫛の組まれをり
紐つけしまま給ひたる吊るし柿
清清として裸木の無一物
吉井勇隠棲の地や山眠る
年木積み棲むとも見えず峽の家
冬耕の土に日ざしの入り込みて
草庵の火のなき囲炉裏冬紅葉
回診の教授の笑顔小春風

- 公文 春紀
- 高橋 章
- 明石ゆきえ
- 北村 幸子
- 西川 常夫
- 甲藤 卓雄
- 國澤 英
- 野崎 典子
- 北村 里子

輪を残し凍てし池より鴨立ちし
仕舞風呂手足を伸ばし冬至の湯
年忘れ母の着物を着付け行く
肩の荷の下りし心地に冬至粥

◆かがみ野俳句会◆

冬薔薇や面輪も凛と孕寿の師
一人居やおでんぐつゝ夕支度
初春や友に恵まれ八十路ゆく
埋火に炭を足しては原発論
父の手を放れ竹馬歩き出す
抽出しに溜まる布切れ一葉忌
山郷や柚子を搾りて年締めめる
竹馬にこつこつ歩む術を知る
竹馬に天狗のお面つまづけり
鯛大根銚色となる母の味

◆かほく俳句会◆

ストープに絵本の世界広がりぬ
大物が政界を去る年の暮れ
年の瀬や梨畑に置く己が影
廃れ家に往時を忍ぶ花八手
山路ゆく杖の先より末枯るる
大根を褒めて帰るや見舞客
鈴の緒を両手に引きて神迎ふ
シベリヤの寒気に負けし土佐の空
親友と呼べる人居て冬温し
極月の無理難題を言はれけり
移ろへるものを惜しまず冬さるる
白壁の蔵に映へたる花アロエ
柿を干す綺麗な空でありにけり
柚子湯必む無数の傷み心にも
樅の木に程よく似合ふ雪積みぬ

- 小野川順子
- 前田 芳子
- 中内ゆかり
- 竹内 ろ草
- 佐竹 洋子
- 佐藤 幸
- 利根 弘子
- 古川 信子
- 小松 愛子
- 中澤 美晴
- 森本 健代
- 山崎 鈴子
- 宮地 亀好
- 吉田 芳
- 乾 真紀子
- 奥宮さとみ
- 久保内鏡子
- 黒岩 幸女
- 黒岩千英子
- 小松 完
- 小松 隆之
- 小松 昇
- 杉山 春萌
- 野村 里史
- 前田 欣一
- 前田 秀女
- 間崎 和代
- 森本 之子
- 山崎かずみ

産土の宮の神木売られけり
誰一人叱る人無し年暮るる
十二月書き込み多きカレンダー

◆土佐山田町俳句会◆

箱籠祀る どの子も跡取らず
枯菊を焚けば匂ひのよみがへり
つまづきし石の硬さや十二月
つむじ風銀杏落葉を巻き上げる
降誕祭ゆつくり回る電光文字
ふとそこに夫ゐる気配温め酒
紅葉の真赤石段宮参り
風花を散らしているのはちははか
山茶花や遠きサイレント夕日落つ
兵学校の煉瓦の茜開戦日
実の樽いつしか閉じし理髪店
故郷へ御無沙汰わびて冬茜

- 山中 晶子
- 山中 瑞輝
- 山中 明石
- 明石 蕙生
- 大石 邦男
- 橋本 昭和
- 森田 貞男
- 前田美智子
- 前田 小夜
- 前田 三郎
- 安丸 慎子
- 笹岡 英世
- 榎谷 雅道
- 田村 一翠
- 西内 道彦

今月のキラリ

秋の天すつきり見せて庭師去る
暑かった今年の夏。徒長した庭木を庭師が切ってくれた。その爽快感は読者にも伝わってくる。

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。(ただし、ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで5句(音)以内)

▼住所・氏名・電話番号を明記してください。

▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。

▼誌面の都合により掲載されない場合があります。要と記してください。

【投稿先】総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌係」
〒782-18501 (住所記載不要) FAX 53・5958